理事長の『老球の細道』③

「スポーツマンシップ」とは何か

会津バスケットボール協会理事長　　室　井　冨　仁

そろそろ公式戦が始まる。大会ではセレモニーがつきものである、

「宣誓！我々選手一同はスポーツマンシップにのっとり、正々堂々と競技することを誓います」

色々なスポーツ大会の開会式でよく耳にする言葉だ。ところが試合が始まるやいなや、特に負けが見えてきたり、自分のプレーが思うようにいかなくなってくると、審判に文句を言ったり、味方をなじったりする選手をよく見かける。ひどい時はコーチの話にも耳を傾けず、ベンチの端の方でふてくされたままの選手も見かける。このようなチーム、選手は誰も応援しようとしないし、スポーツを心から愛する者にとってはこのような光景を目にすることはとても寂しい。開会式で宣誓したあの「スポーツマンシップ」の精神はどこに行ってしまったのだろうか。かつてあちこちの大会を観戦に行って感じたことである。

スポーツは勝ち負けのつくゲームをする運動であるが、プレーヤーは肉体強化だけではなく全人格の強化も求められている。特にトップレベルの戦いをする者にとってはなおさらのことである。みんなの憧れであり、目標とされる存在なのだから。

スポーツはただ単に勝てばいいというものではない。その戦いを通して、子どもは大人に成長し、大人は紳士、淑女に熟成していくと常日頃感じている（自分のことはさておき）。スポーツはそのくらい価値のある文化なのである。

スポーツは上手くなって勝つことが第一の目的であるが、勝つために手段を選ばなかったり、また「勝とう」としないで、「勝つ」ことをあきらめてしまうこともスポーツマンシップに反することになる。あきらめた相手に勝っても何ら意味がないからである。

ところで、この「スポーツマンシップ」という言葉はあちこちで軽々しく使われるが、本当の意味を理解している人はどのくらいいるのだろうか。

簡単に言うと、スポーツマンシップとは「スポーツマンらしさ」という意味である。スポーツをする人が「当然身につけるべきこと」とか「目指すべき理想の姿」とか考えられるが、せんじつめると尊重（Rispect）するということである。何を尊重するのか。それは、「ルール」、「相手」、「審判」である。この三つがなければゲームは成り立たず、この三つを尊重することによって、自分が一生懸命プレーすることに意味ができて、勝つことがうれしくなる。だから、試合ではルールを守るだけではなく、フェアープレーをすること。審判に文句を言わないこと。相手に汚いヤジを飛ばしたり、馬鹿にしたりしないこと。相手が強かろうが弱かろうが全力を尽くすこと。もちろん、味方も大切にすること。

会津地区のバスケットボールを愛する者は、スポーツマンシップに則り、本物のスポーツマン、アスリートになってほしい。　本物のアスリートになるには次の４条件が大切。

１・勝つためには、上手になること。そのためには努力すること。

２・試合で尊重しなければならないことは、「ルール」、「審判」、「相手」。

３・負けたときの態度がスポーツマンらしさを判断するバロメーター。
　ふてくされないで勝った相手を称える。味方のミスを責めない。

４・フォアー・ザ・チーム。チームのよき一員として強調し、助け合う。

＊参考『スポーツマンシップを考える』広瀬一郎著（ベースボールマガジン社）